

会報 第74号	Mt. Iwaki Conservation Association 	2017年12月22日発行 岩木山を考える会 会長 小堀英憲
------------	--	--------------------------------------

新年会のご案内

岩木山を取り巻く環境の変化をこの一年間、幹事会への参加を通じて感じる事が色々ありました。岩木山の事や、自然の事について語り合いませんか。今年の新年会は、岩木山講座⑤「岩木山の噴火」の後に催します。講座の終了後 出席下さいますように。

日時	1月27日(土) 午後4時～6時
会場	呑み喰い蔵座敷「川丁」 弘前市百石町60-9 (☎ 35-4111) (長谷川写真館の南へ3件目)
会費	4000円
申し込み先	藤原 裕貴子 (☎ 33-5360)
申し込み締切	1月23日(火)

2017 岩木山講座⑤ 岩木山の噴火のおはなし

あちこちで火山が噴火しています。2014年9月の御嶽山の噴火で多数の犠牲者がでたことは記憶に新しいところです。つい最近もインドネシア・バリ島で噴火活動が高まり、当局は警戒水準を最高に引き上げ、避難区域を拡大しています。地球は火山の活動期に入ったとも言われていますが、こうした状況を受けて岩木山にも、避難小屋にヘルメットが常備されたり、気象庁が新たに地震計や傾斜計を設置するなど、噴火による被害を最小限に食い止めようとする動きが出ています。

そこで今回は、青森県内の火山とその活動史を専門に研究しておられる先生をお招きして、岩木山の噴火の歴史と今後の見通し、万一噴火があればどのようなことが想定されるのか、などについてお話いただくことにしました。



11/27 インドネシア・バリ島の活火山アグン

▼講師 佐々木 実先生(弘前大学地球環境防災学科講師)

▼とき 1月27日(土) 13時半～15時半

▼ところ 弘前市みどりの相談所集会室

(弘前中央高校の裏門・グランド側にある公園入口を入るとすぐ右です)

▼参加費 :無料

▼申し込み不要です。知人・友人お誘いあわせの上おいで下さい。

▼問い合わせ先:小堀0172-87-1910 竹浪070-6952-2614

※ お車でおいでの方は、近くの駐車場をご利用ください。

第24回写真展「私の岩木山」開催と

出品・会場展示のお願い

毎年恒例の写真展「私の岩木山」を下記の要綱で開催します。皆様が撮影した岩木山に関連する写真を、ふるって出品下さいますように。(会員外の方も歓迎です。出品作品に手詰まりがある際は、撮影地等を明示して岩木山以外の写真でも展示いただいてもいいです。)開催前日(2/8)は、出展準備で人手が必要になります。時間のある方はお手数でもご協力下さい。よろしくお願ひします。

日時 平成30年2月9日(金)～11日(日)

午前10時～午後5時(最終日は午後4時)

開催場所 NHK弘前放送局ギャラリー(弘前市下白銀町21-6)

出展準備 2月8日(木)午後3時から

※出品する方は同封の出品票に必要事項を記入の上ご持参ください。

出品票のみ早目にお近くの監事に提出下されば助かります。

岩木山講座⑥ 冬の岩木山観察会

岩木山嶽温泉裏側の山麓の木立の中をゆっくり歩きながら、ヤドリギやオニグルミの葉痕、動物の足跡などを観察する17年度最後の岩木山講座です。この時季の山麓の雪原は、個人ではなかなか歩く機会が少ないと思います。岩木山を考える会では、雪原の散策を楽しんでいただきたく企画しました。皆様のご参加をお待ちしています。



日 時： 3月18日(日) 9時～12時

募集人員： 先着20名様

集合場所： 午前9時までに嶽温泉駐車場に集合
ください。

持ち物： 防寒着・長靴または登山靴・準備できる
方はカンジキ

参加費： 200円(保険・資料代)

責任者及び申し込み先： 阿部 東(TEL 0172-36-8405)

申込締切日： 3月15日(木)21時



2018年度 岩木山を考える会総会開催のご案内

日 時 平成30年4月8日(日) 午後1時30分～3時30分

場 所 弘前市民参画センター

多くの会員の皆様の出席をお願いします。

長平湿原の調査報告

9月22日(晴れ) 参加者:竹浪純、阿部東

9月9日に予定されていた岩木山の高層湿原の調査が22日に変更され、参加者が少なく本来の調査が出来ないことが判ったので、湿原への土砂の流入状況の確認と今年8月に行われたという長平部落の方々による登山道刈払いの状況を調べることにした。

(1)登山道の状況

- 長平スキー場の駐車場からの鱒ヶ沢町の町道はその後にも全く補修されておらず、二子沼林道の分岐とその上のゲレンデあたりまでより車は入れなかった。
- 拡張されたゲレンデへの分岐で車を降りた。石神神社の手前20分程である。
- 石神様から奥ノ院を通り、ブナの森を過ぎゲレンデに出るまでは刈払いが行き届いていた。
- 従来の登山道は左側の森に沿っていたがゲレンデの中央を通り鳳鳴高校碑(左側の森の縁)を通り急な道を越すとブナの森に入る。恐らくスキー場管理のための刈払いはしていないのでススキが生え、道がわからなくなって一度引き返した。
- 森の中から湿原に続く水場までは刈払いが行き届いていて森に入っすぐの水場付近のチャルメルソウやイチヤクソウなどまで丁寧に刈られていた。

(2)湿原への土砂の流入について

土砂の流入は一応治まって、昨年から今年にかけては起こっていないようである。

(3)生物調査

ゲンゴロウや一部ゴミムシ類など新成虫が羽化しているものが数種とれた他はアキアカネが数頭見られ

ただで、すでに虫のシーズンを終えていた。トンボのヤゴが3種とれたが年令の異なるオオルリボシヤンマと同定された。ゲンゴロウは3種あり、マメゲンゴロウ、クロズマメゲンゴロウともう一種は専門家に同定を依頼している。

天気も良く、竹浪さんがスローペースをとってくれたので心配された体力にもかかわらず楽しい山行となった。

阿部東 記

9月23日弥生跡地観察会

9月23日の弥生跡地観察会は一般市民、市職員各位のご家族様等が参加。横断道路から上の森林地帯と沢地を一巡りする例年のコースでした。

小生はどちらかという先頭に立つよりも後方にいて全体を見る方が自分向きだと勝手に思って歩きました。紅葉前の中秋の森林は天候もよくそれなりに良かったと思います。森林の生物、沢のザリガニ捕獲とその後セットで必ず行う再放流等チビツ子、市職員、奥様方も満足げでした。沢の急斜面に設置したロープ、テープで目印、必要個所の刈払い等もOKと思いました。関心の一つであるキノコの方は私の予測通り不作気味でした。又、元庭園跡の園芸種でも野生の中で生き残っていたのもありました。あの見晴らし台(?)に立つこの跡地も遠望も含めその広大さ、植生の遷移など岩木山内でも素晴らしい山域と思えます。

本会側からの参加者は小生と松本さんでした。動植物その他は松本さんにお任せの感じではありましたが松本さん、石戸谷さん等の博識ぶりにはいつも感服する次第です。

小生個人の印象としてシラカバの樹は大きな繁殖力を有しているのではないのか？

- ・市の職員の方々も責任感と使命感を持って行動しているように見受けました。
- ・余談ながら小生個人の覚えた知識の一つとしてシラカバとダケカンバの区別が葉っぱでわかったつもりになりました。(今年収穫の新知識)
- ・もう一つの特筆の印象として観察後の鍋汁のおいしさでした。市職員の方々もお替りを繰り返していました。うまかった、おいしかったです。

斉藤真人 記

第4回岩木山講座「後長根沢の砂防堰堤の観察会」

観察会の下見は10月5日に担当幹事(阿部東、斉藤、藤原)の3名で行いました。同日、新聞社等のマスコミ周りもしました。

10月15日(日)観察会への参加者は9名。百沢スキー場駐車場に集合後、3台の車に乗り合わせて堰堤の観察地へ。広い駐車地があります。旧堰堤の上部方向に、新たに2013年9月台風18号による後長根沢崩落後造られた3基の堰堤の状態を観察。本会の提言が取り入れられて堰堤の高さは、予定より低くなっていましたが、各堰堤は土砂等で満杯でした。これを超えると土石流が起こるか見通せるそうです。又、大きな岩が川岸に寄せられて、下方に流れにくいようにされていました。堰堤の観察会は1~2年の短期ではなく、数年単位で継続して、

設置者も一般市民も行っていくべきではないかと、思いました。

丁度、紅葉が美しい岩木山を見ることができました。大体標高 500メートル位の辺りが今回の観察地の最上部かと思われます。イタヤカエデ(黄色)、ヌルデ(赤、虫こぶついたものあり)が鮮やか。樹液にキイロスズメバチ、蝶が集まっていました。ドングリが芽をのぼしているものもありました。カサスゲ、トラノオ、ウダイカンバ、ツルリンドウ(赤い実)、ヒヨドリバナ(渡りの蝶アサギマダラが好む花)ヤマハギ、クマイチゴ(赤い実)、コバノトネリコ、サルナシ、コシアブラ、ムラサキシキブ(紫色の小粒の実)ツルシオデ(ソデコ)の秋の状態を見ることができました。堰堤を造るための付け替え道路は土がかく乱されて発芽するオトギリソウ、タラノキ、タニウツギ等が見られました。虫類では、イナゴ、ガガンボ(蚊の大きいもの)です。10月5日の下見の時はツチアケビ、キンミズヒキに出会えました。



藤原裕貴子 記

参加者感想 「後長根沢の砂防堰堤の観察会」

観察会に久しぶりに参加致しました。ここ数年我が家では山菜ときのこの需要が高まり観察会と重なることが多く、申し開きもありません。今年はずのこがまれにみる不作。この機を逃さず参加となりました。

今回は後長根沢の砂防堰堤がテーマ。数年前「百沢ゲレンデの位置が変？伸びた？増えた？」と見間違いもあった(本当)崩落は、蔵助沢の記憶がある人達には不気味に映ったと思います。

秋独特の香りと静寂、美しい山頂の眺めの下でしたが、沢に近づけばあちこちに巨岩があり、水の力の凄まじさを感じました。気候変動が顕著な現在、あちこちで同じことが発生するのかと不安になりました。自然災害は克服とか対策ではなく、早く知ってどう逃げるかと第一に考えるべきと思いました。

まじめに考える一方で、気づけば道端の倒木についつい視線が移り「キノコ、キノコ」と呟く自分に『あきらめが悪い』と反省しきりのひとときでもありました。ありがとうございました。またよろしくお願いします。

平川市碓ヶ関 黒滝 松太 記

11月21日の毎木調査

当日は前日20日から予想もしていなかった積雪という悪天候でしたが事務局長、阿部先生両氏の積極的なリーダーシップによって実施となりました。小生個人の経験則ではおそらく中止、延期となるはずと思いつき、勝手ながらそのつもりで現場へ登る入り口付近で待機していました。やがて到着した両氏の搭乗した車は一車線の轍の雪面をかまわず前進。小生もつられて(軽4WD)追っかけ、やや広さと幅のあった個所に駐車。そして輪カンジキで準備OKの両氏に対してあわてて小生も身支度して健脚両氏の後を追いました。当地の積雪は60cm位でこっちは追うのが精一杯でフーフーでしたが、両氏の積極姿勢には大賛成ではありません。順番は(第一エリア)→(第三エリア)→(第二エリア)の順で樹木の周囲長の測定を実施しました。(第三エリア)の一部の樹木を除いて一応順調に成長していたようでした。雪の中では樹木の測定部位のマークが目立つので目的樹木を見つけやすいメリットもありました。なお、帰途走行中、同じ4WD走行でも軽では車軸間が狭いのですぐ左右に泳ぎやすいということも確認にいたりしました。

齊藤真人 記

岩木山環境保全協議会の動き～9月以降～

岩木山環境保全協議会は、年1回の総会以外にも必要に応じて、情報交換会を開催しています。この間、10月、11月と2回開催され、岩木山の登山道整備などについて話し合わせ、実際に弥生登山道の整備が行われました。

1. 弥生登山道の懸案事項だった8合目から上の登山道は、危険の回避と岩木山の植物の保護のため、付け替えをしました。具体的には、8合目の標識があるところから湿地帯の横を北側へ30mほど刈り払い、赤倉登山道に合流させました。しかしこのルートは、当初当会や勤労者山岳会が提案したものとは違う場所が伐採された、ということが後から判明する結果となったのです。今後、標識の設置を進める予定ですが、湿地帯が荒らされ消失してしまうことへの危惧が出されています。幹事会としては、来年の雪解けを待って現地調査をし、今後の対応を検討することにしました。
2. 気象庁が岩木山の火山活動を監視するために、焼止避難小屋付近に取り付けた傾斜計が、一冬で破損した件について、気象庁は来年再設置する方向となりました。12月22日に情報交換会を開催し、設置場所を検討する予定です。気象庁からは、百沢スキー場の最上部か、中間地点の平地部分への設置計画案が出ていますが、協議会の会員からは、焼止避難小屋の屋根に取り付ける案も出されており、検討が必要です。いずれにせよ、破損の恐れがない場所を慎重に選択する必要があります。
3. 岩木山頂にハエが飛び交っている問題について、山頂トイレの使用頻度を少なくするため、8合目で用を済ませることの呼びかけ、携帯トイレの持参の呼びかけなどの看板を8合目駐車場に設置することについて、意見交換がされています。山頂登山の折は、お山に余計な負担をかけないように、トイレ対策を頭に入れて行動するようにしましょう。

弥生ネットの動き～9月以降～

1. 9月23日(土)弥生スキー場跡地観察会を実施しました。

市民5家族15名。市より4名、弥生ネット5名計24名の参加がありました(当会より、小堀、齋藤、竹浪)。

観察会の準備で、20日に下見を阿部幹事、竹浪、小堀と市職員で行い、コースの確認、トラップの設置、刈り払い等を行っています。

当日、子どもたちは、ニホンザリガニやトンボ、蝶などを捕まえ歓声を上げていました。当日のトラップには、ゴミムシやオサムシ、ケシキスイ科の昆虫が入っており、後日、阿部幹事に同定してもらった上で参加者家族に結果をお返ししました。

観察会終了後、コープの土岐さんが作ってくれた豚汁をみんなで食べて解散しました。

2. 跡地の自然回復の様子をもっとよく知るため、1

1月、2回に渡って現地調査を行いました。阿部、竹浪に加え、ウォッチングの松本氏にも同行をいただきました。スキー場ターミナル造成の折に土に埋めた配水ダクトが、長い年月を経て沢が浸食され露出し、巨大な竜のように沢の中に横たわっているのは実に異様な光景でした。

3. 11/21に齋藤幹事の音頭の下、年2回実施している毎木調査を行いました。参加者は齋藤、阿部、竹浪3人。おりしも雪がどさっと降った時期に重なり、深雪のラッセルをしながら3か所、30本の標本木の測定をしました。1年間で平均2.6cm幹回りが太くなっていることが確認されました。



寄稿 超人、竹越恵蔵氏と出会う

去る5月3日、足慣らしのつもりで堅雪の弥生新道コースを中腹まで登り、そして下山はあっちへ寄ったり、こっちへ来たりしながらウロウロ歩いていると着々と登ってくる登山者と出会いました。そしていろいろ話しているとあの超人竹下氏だとわかりびっくりした次第。竹下氏は知る人ぞ知る、ですが、私の知る限りでも厳冬の八甲田縦走(これは青森市の森林博物館にその時の経緯、説明、使用した道具などの展示があります。)、また向白神山地をくまなく歩いている事、そして昭和50年代後半頃と記憶していますが年末年始の頃、私が岩木登頂を目指したとき焼止り小屋の記録ノートの氏の記述には目を見張ったものでした。

それは十二湖から白神へ入山→白神山地を縦断、横断しながら岩木山麓へ到達→そして岩木山へと登山した、というものでした。

私の知る限りでも以上ですが、まだまだ超人的な行動は知る人は知っていると思います。そして、弥生で出会った当日は氏は登頂はしないで赤倉山へ出て大黒沢左岸を下り、沢を横断して弥生へ戻るとのことで

した。私などはとても氏の足元にも及ばないのですが話の中で私の方も『岩木山の主な沢は一応踏破している』ということをお話したのは自分と氏との間で一応話が盛り上がったことの一因なのかもしれません。

その後5月下旬には氏は岩手県で岩手山、早池峰山、五葉山、その他いろいろな山をハンゴ登山したとのことでした。氏は現在80歳を越していますが本県の超人、東北の超人、そして日本の超人として記憶してしるべき方だということをお記述しておきたいと思う次第です。

齊藤真人 記

会員継続と平成29年度会費納入のお願い

 平素当会の活動にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。今年度も引き続き、会員継続とご協力をよろしくお願いいたします。

会費は同封の払い込み用紙または最寄りの幹事を介してお納めください。なお、会費納入状況をお知らせする付箋を同封しておりますので、ご確認ください。(2017.4.2.現在)

幹事募集と幹事会への参加呼びかけ

 岩木山を考える会の企画・運営に参加していただける方を募集しています。まずは、毎月第一火曜日(5月は第二火曜日)に開催している幹事会に顔を出してみませんか?日頃、岩木山についてお気づきのことや考えていることなどごつづばらんにお聞かせください。桜大通り、市民参画センターで午後6時～。

※編集後記

今年の我が家のりんごはやや不作で終わりました。さらに品質もイマイチ。変形果が多くサビ、黒星病、つる割れ等様々な障害が発生し弱り目に祟り目という感じ。それでも、悪いことばかりではありません。年々宅配のお客が増えてきて遂に今年で半分以上のりんごを自分で値段を決めて売ることが出来ました。りんごも家造りも毎年僅かずつ前進しています。

今年の冬はラニーニャ現象が発生しているようです。ということは今年は大雪の可能性が高まりそうです。数年前の悪夢が蘇ります。大きなりんごの樹でさえネズミに皮を齧られ甚大な被害が出ました。今年もそうならないように万全の対策をとりたいところですがまだ一部雪囲いが終わらないほど今年は何故か忙しい。宅配が増えたからかな?来年こそはもうちょっと仕事を減らそう。そして、倉庫が欲しい。今は実家の倉庫にりんごを置いていて発送する荷物があるたび行ったり来たり。大きな倉庫で効率の良い仕事がしたい。宝くじが当たりますように!

小倉慎吾 記

会報 「岩木山を考える」第73号(2017年9月29日)発行/岩木山を考える会
会長 小堀英憲 〒036-8131青森県弘前市千年4-12-15/電話0172-87-1910
事務局長 竹浪 純/電話070-6952-2614
郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会